

入選

親切の旅

栃木県 栃木第三小学校

4年 荒川 禱

「あれ、電話が鳴ってない？」

お母さんのそのひとことが、私たちの親切の旅の始まりでした。

家族で電車に乗るため、駅までの道を歩いているときでした。音の鳴る方に行ってみると、スマートフォンが落ちていました。見て見ぬふりはできないと思い、近くの交番にとどけに行きました。手続きが終わり交番を出たときには、電車の時間は過ぎていました。でも、私は電車に間に合わなかった残念な気持ちよりも、だれかの役に立てたうれしさでいっぱいでした。

次の電車に乗り、おりた駅のホームで女の人がたおれていることに気づきました。女の人の子をさすっている女の子と、駅員さんをよびにいった男の人がもどってきたところでした。私のお母さんも、心配して声をかけに行きました。

そのときです。おじさんが近づいてきて、持っていたふくろを女の子にわたし、そのまま歩いて行ってしまいました。ふくろの中には、ペットボトルが入っていました。もしかしたら、おじさんは、急いで飲み物を買って行ってくれたのかもしれない。

たおれていた女の人を、駅員さんが車いすに乗せて運んで行きました。すると、いっしょにいた女の子と男の人は別々の方向に歩いて行きました。私は3人が家族だと思っていたので、とてもびっくりしました。いろいろな人の親切が集まっていたことを知って、心があたたかくなりました。

お母さんに、「知らない人に話しかけるのは、はずかしくないの？」と聞くと、「こまっている人を助けてあげられるなら、ぜんぜんはずかしいことじゃないよ。」と言って歩き出しました。私には、どんな親切ができるのかなあ、と歩きながら考えました。

けんばい機できっぷを買っていたとき、となりにならんでいたおばあさんのおさいふから500円が落ちたことに、私は気づきました。

少しきんちょうしたけれど、勇気を出してお金を拾ってわたしてあげました。おばあさんはえがおで、「ありがとう。」と言って受け取りました。私にもできる親切があったんだ、とうれしくなりました。

帰りの電車で、つかれて立っていた私と弟にお兄さんが席をゆずってくれました。弟と、今日は朝から大変だったけれど、楽しかったことを話しながら帰りました。私は心の中で、「今日はたくさんの親切があふれていた、とってもすてきな一日だったなあ」と思いました。

これから私も、自分ができる親切を進んでできる人になりたいです。そして、みんなの親切が集まってやさしい世界になるといいなと思います。